

文化庁メディア芸術祭 受賞作品を発表！

アート、アニメ、映像、ゲーム、ウェブ、マンガなど、今年を代表する作品が勢ぞろい

文化庁メディア芸術祭実行委員会（文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会）は、本年度の受賞作品 24 点、功労賞 1 点、審査委員会推薦作品 147 点を決定しました。

アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの 4 部門に、世界 44 の国と地域からご応募いただいた 2,146 作品の中から選ばれています。

アート部門大賞は、ユーモラスなグラフィックと愉快的反応を誰もが楽しめる体験型作品『Oops!』。エンターテインメント部門は、メディアアーティストである岩井俊雄氏が企業と共同開発し製品化した、音と光を奏でる電子楽器『TENORI-ON』。アニメーション部門は、水没してゆく街のなかでひとり暮らしている老人の物語『つみきのいえ』。マンガ部門は、自由奔放で天才的な才能を持つ少年が、ピアニストを目指し成長する姿を描いた『ピアノの森』です。

功労賞には、60 年代からアーティストとして時代を切り拓き、ビデオギャラリーや公募展を主催するなど、メディア芸術を根底から支える活動を行ってきた中谷芙二子（なかやふじこ）氏が選ばれました。

今年度は、アートやエンターテインメントといったジャンルの垣根を乗り越え、視覚だけでなく聴覚や触覚など、人間の身体性をテーマにした作品が数多く受賞しています。これらの作品をご覧いただける受賞作品展を 2 月 4 日から 15 日まで国立新美術館にて開催いたします。

[第 12 回] 文化庁メディア芸術祭 開催概要

会 期	2009 年 2 月 4 日（水）～ 15 日（日）（10 日（火）休館） 10:00～18:00 金曜は 20:00（入館は閉館の 30 分前）
会 場	国立新美術館 企画展示室 2E（東京・六本木）
入場料	無料
URL	http://plaza.bunka.go.jp/
主 催	文化庁メディア芸術祭実行委員会 （文化庁・国立新美術館・CG-ARTS 協会）
お問合せ	CG-ARTS 協会「文化庁メディア芸術祭事務局」 フリーダイヤル 0120-454536 http://plaza.bunka.go.jp/q/

- * プレス向け内覧会は 2 月 3 日（火）15:00 から、贈呈式は同日 18:00 からを予定。
- * 大賞作品の画像は CG-ARTS 協会のプレスリリース掲載ページ http://www.cgarts.or.jp/outline/press/2008/081209_image.html からダウンロードいただけます。その他受賞作品の画像をご掲載希望の場合は、ご連絡ください。

Exhibition of Award-winning Works 2009.2.4-15
国立新美術館
2009.2.4-15
Manga
Entertainment
Art
Animation
JAPAN MEDIA ARTS FESTIVAL 12th
文化庁メディア芸術祭

受賞作品展ポスター

この件に関する問合せ先

CG-ARTS 協会 広報 篠原・千葉 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 URL <http://plaza.bunka.go.jp/q/>
広報分室 友野・安藤（プランデックス・ジャパン） TEL 03-3564-2361 FAX 03-3564-5238

大賞・功労賞 贈賞理由

アート部門大賞『Oops!』 マルシオ アンブロジーオ

参加している人々の楽しげで、自分の身体の周辺にあらわれてくるアニメーションのイメージによって、クリエイティブな反応が誘発される様子が印象的な作品である。先端テクノロジーとクラシックなアニメーションをプレイフルにアーティスティックに組み合わせられてつくられたこの作品は、中に入った人が身体を動かす事で、さまざまなアニメのキャラクターやストーリーに引き込まれていく。次々とあらわれるキャラクターやエフェクトは、自分が宇宙をつくりだしているという幻想をいだかせる。生きることを祝祭的に祝うようなブラジルのポジティブな明るさが存分に発揮された作品である。



©Oops!

エンターテインメント部門大賞『TENORI-ON』（テノリオン） 岩井俊雄 / 「TENORI-ON」開発チーム代表 西堀佑

音楽制作においては、電氣的に合成した音（シンセサイザー）や、原音を録音したもの（サンプル）が日常的に使われるようになり、“音源”のあり方は、ここ40年ほどで、革命的ともいえる変化が起こった。しかし、その音源をコントロールするインターフェイスは、未だに、中世以来の鍵盤や、伝統的な打楽器を模したパッドが主流である。大賞の理由は、必然性を持つ革新であること。そして何よりも、ヒトと機械との接面ともいえるインターフェイス部分を、ハードウェアとして、商品化まで実現したことである。音楽の知識無しでも、気軽に遊べる装置であることは確かだが、その可能性は未知数である。初めて手にしたプレイヤーたちに、これほどまで新たなチャレンジ意欲を抱かせる楽器（音楽インターフェイス）を、他に知らない。



©岩井俊雄 / ヤマハ株式会社

アニメーション部門大賞『つみきのいえ』 加藤久仁生

すでに国内外のいくつかのアニメーションフェスティバルでも入賞を果たしている本作品、なにがその受賞理由だろうか？ 繊細かつ郷愁的な絵世界、セリフや説明を排しながらも端的に伝わるストーリー、地球環境的な設定など、いろいろあると思うが、表現自体が斬新で先鋭的ということではない。作品の佇まいもけって派手ではない。しかし作者の人間に対する暖かいまなざしと「想い」が観る人の心にしみる。アニメーション表現が多様化する昨今、作り手がなにを目指し、なにを目的として制作するかが大きなポイントである。芸術性、実験性、娯楽性、大衆性など、目指しているパラメーターは作り手ごとにちがうだろうが、本作には国境や世代をこえて観た人を魅了する普遍性と豊かさがある。この普遍性こそ、国内ではまだ認知度の低い短編アニメーションの在り方の新たな可能性、さらには表現行為のひとつの意義を示している。



©ROBOT

マンガ部門大賞『ピアノの森』 一色まこと

森の中に一台のピアノがある。打ち捨てられ、雨ざらしになったピアノ。だが、森という伽藍の中に置かれ、月光のライトを浴びて輝くグランドピアノ。たった一人の少年にしか音を聞かない森のピアノ…。なんととっても、冒頭のこのイメージがいい。“森の端(はた)”と呼ばれるガラの悪い地区で育ったカイだけが弾きこなせる森のピアノの音が、周囲の人々を変えていく。カイの自由な演奏に激しく心を揺らしつつも、自分は「完璧なピアノ」を目指そうとする雨宮少年。あがり症を克服しようと懸命に努力する“便所姫” 誉子。どの子供たちも魅力的で、読んでいると愛しくなってくる。同じく音楽マンガである『マエストロ』と僅差の争いだった。「音楽」マンガの豊かな実りは近年の収穫だと言えるだろう。



©一色まこと / 講談社

功労賞 中谷芙二子（アーティスト）

中谷芙二子さんは、1960年代から今日にいたるまで、様々な作品を制作してきたアーティストだ。『霧の彫刻』のシリーズや、『情報彫刻「ユートピア Q&A 1981」』。映像作品としては、1972年に小林はくどう氏との共同制作の『水俣病を告発する会 - テント村ビデオ日記』、『老人の知恵 - 文化のDNA』など、活動の範囲は多彩だ。その中でも忘れてならないのは、1980年に原宿に開設されたビデオギャラリーSCANでの活動である。日本で唯一のビデオアート専門ギャラリーとして、国内外の作品の紹介や、1981年からは公募展などを主催し、数多くの映像作家がここから巣立っていった。このビデオアートを根底から支えていった活動は称賛に値する。

[第12回]文化庁メディア芸術祭 開催内容

「文化庁メディア芸術祭」は、新しい表現技法を開拓して制作した創造性あふれるメディア芸術作品を顕彰し、アーティストや作品を広く紹介するために平成9年度（1997年）より毎年開催しています。

■ 受賞作品展

世界44の国と地域、2,146点の応募作品から選ばれたアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ部門の受賞作品と審査委員会推薦作品を合わせた172点を紹介。

《アート部門》

54作品（インタラクティブアート／インスタレーション／映像／静止画／webなど）

《エンターテインメント部門》

45作品（ゲーム／遊具／キャラクター／映像／webなど）

《アニメーション部門》

37作品（劇場公開アニメーション／TVアニメーション／OVA／短編アニメーションなど）

《マンガ部門》

35作品（ストーリーマンガ／コママンガ／自主制作マンガ／オンラインマンガなど）

《功労賞》 1名（受賞者の活動や作品を紹介）

■ 上映会

アニメーション、アート映像、ミュージックビデオ、CMなど、各部門から選ばれたさまざまな映像作品を上映します。劇場公開作品も全編上映します。

■ シンポジウム

「受賞者シンポジウム」今年度の各部門の受賞者と審査委員によるシンポジウム。

「テーマシンポジウム」メディア芸術に関連するアーティスト、教育者、研究者らによるシンポジウム。

■ 同時開催イベント

「第14回学生CGコンテスト受賞作品展」（主催：CG-ARTS協会）

未来を担う若い才能の発掘を目的としたコンテスト。静止画、動画、インタラクティブの3部門に応募があった1,017作品から選ばれた優秀作品を展示。

*表彰式は2月7日（土）11時から国立新美術館にて実施予定。

「Media Art in the World」

欧米やアジアなど、世界中にあるメディア芸術の有力フェスティバル（シーグラフ、アルスエレクトロニカなど）をパネルと映像で紹介。

「先端技術ショーケース '09」（主催：文部科学省、独立行政法人科学技術振興機構）

表現のための新技術や最先端技術が生み出す表現の可能性を体験型展示で紹介。

CG-ARTS協会（財団法人 画像情報教育振興協会）について

CG-ARTS協会は1992年に設立した文部科学省認可の財団で、主にCG分野における『人材育成』と『文化振興』を行っています。 www.cgarts.or.jp